

## 逆接表現共通調査項目解説

前田 直子

### 1. 逆接表現とは

ある二つの事態において、前件からの予測に反する事態を後件が表す表現を、逆接表現と呼ぶ。

- ・ボタンを押しても、水が出なかった。
- ・ボタンを押したけれども、水が出なかった。
- ・ボタンを押したのに、水が出なかった。

前件からの予測は様々なものが可能であり、上のような因果関係に基づくものもあれば、そのような関係が読み取れないものまである。ことに「が・けれども」の場合は、後件に自由な内容が続くことが可能で、狭い意味での逆接からはずれると見えることもあり、それが「が・けれども」の多様な用法の基になっている。

### 2. 逆接表現のさまざまな形式とその相違

現代日本語の標準語には、仮定表現を表す形式が複数あるが、基本的な形式「けれども(けれど・けれど・けども・けど)」「が」「のに」「ても」の4形式であろう。このうち、「けれども」と「が」の意味・用法はほぼ等しく、両者の違いは位相的・文体的な要素が大きいので、「けれども・が」は一つのものとして扱う。

#### 2.1 前件に関する相違

##### (1) 前件述語の形態

「ても」「のに」「けれども・が」は、その前件述語に出現可能な形態において相違がある。

第一に、非過去形・過去形の両方が可能かどうかと言うテンスの分化については、「のに」および「けれども・が」は可能であって、それぞれ「するのに・したのに」「するけれども・したけれども」となるが、テ形を含む「ても」は不可能である。

第二に、丁寧形への接続については、「ても」は「しましても」、「けれども・が」は「しますけれども・しましたけれども」と可能である。一方「のに」は「しますのに・しましたのに」という形が可能ではあるが、過度に丁寧な印象を与える。

第三に、推量「だろう・まい」への接続については、「けれども・が」のみが可能であり、「だろうけれども・でしょうけれども・だろうが・でしょうが」となるが、テ形を含

む「ても」は不可能であり、また「のに」も「だろうのに」「でしょうのに」は不可能である。ただし、ほぼそれに相当する形態「だろうに」「でしょうに」がある。

第四に、「のだ」への接続についても、「けれども・が」のみが可能であり、「のだけれども・のだが・のですけれども・のですが」となる。話し言葉においては「んだけれども・んだが・んですけれども・んですが」となる。「ても」は形態的には「のでも」となるがこの形態はない。「のだ」と同じく準体助詞「の」を含む「のに」は接続が不可能である。

こうしたことは、「ても」「のに」がB類の接続助詞であるのに対し、「けれども・が」がC類の接続助詞であることから説明することができる。

## (2) 「ても」の特殊用法

さらに前件の述語の形態以外に、「ても」のみ、次のような特徴を持つ。第一に、複数の「ても」節が出現可能であるという点である。

- ・雨が降っても風が吹いても、試合は行われる。
- ・雨が降っても降らなくても、試合は実施する。
- ・たくさんあるので、食べても食べても減らない。

「ても」は、異なる事態、肯定・否定のみが異なる事態、あるいは同じ事態を並列させることができるが、原則として二つの節が並び、三つ以上がならぶことはない。こうした場合の意味は、二つの前件どちらもが後件を引き起こすこと、つまり「必ず後件の結果が生起する」という意味を表す。

また、「ても」のみ、その前件に疑問語を含むことができる。

- ・誰がやっても、この機械はうまく操作できない。
- ・何をやっても、すぐに上手になる。
- ・どこへいっても、すぐに友達ができる。

この場合の前件は、事態が複数回生起しても同じ後件を引き起こす意味を表し、前件の条件によって後件の結果が左右されないこと、つまり「必ず後件の結果が生起する」という意味を表す。「ても」節が二つ並列する場合と同じであるが、こちらのほうが無数のケースを想定している点では、後件生起の必然度は高いことが主張される。

	ても	のに	けれども・が
① 丁寧形との接続	○	△	○
② 従属節テンスの分化	×	○	○
③ 推量への接続	×	×	○
④ 「のだ」への接続	×	×	○
⑤ 複数節の並列	○	×	×
⑥ 疑問語との共起	○	×	×

## 2.3 後件に関する相違

### (1) 「のに」のモダリティ制約

後件、すなわち主節については、「ても」「けれども・が」は制限がないが、「のに」には、次のようなモダリティ制約がある。

「雨が降っている」ことと「外で遊ぶ」ことは逆接的な関係であり、一般的には「雨が降っている」場合には、「外では遊ばない」、とが予測されるが、にもかからわず、次のように、命令や勧誘の表現が後件に現れる場合、「のに」は使用できない。

- ・ \*雨が降っているのに、外で遊びなさい。
- ・ \*雨が降っているのに、外で遊ぼう。

また「のに」は疑問や推量の表現とも共起しない。

- ・ \*雨が降っているのに、外で遊びますか？
- ・ \*雨が降っているのに、外で遊ぶだろう。

「のに」が結びつける前件・後件は、事実のみであり、「のみ」は確定した事態のみを接続することができる。

一方、「ても」や「けれども・が」ではこうした制約はない。

- ・ 雨が降っていても、外で遊びなさい。
- ・ 雨が降っていても、外で遊ぼう。
- ・ 雨が降っていても、外で遊びますか？
- ・ 雨が降っていても、外で遊ぶだろう。
- ・ 雨が降っているけれども、外で遊びなさい。
- ・ 雨が降っているけれども、外で遊ぼう。
- ・ 雨が降っているけれども、外で遊びますか？
- ・ 雨が降っているけれども、外で遊ぶだろう。

ただし、確定していない場合でも次のような禁止表現は可能である。

- ・ 雨が降っているのに、外で遊ぶな。

これは禁止の意味が「雨が降っているのに、外で遊ぶ」という事態全体をスコープとしていると考えられる。

- ・ [雨が降っているのに、外で遊ぶ] な。

禁止のスコープを後件に限定する場合には、むしろ次のような順接の原因・理由表現にする必要がある。

- ・ 雨が降っているのだから、外で遊ぶな。

禁止の場合にのみ「のに」が可能になるのは、禁止表現の特徴とも関わる。禁止とは、「命令の否定」あるいは「否定の命令」と考えられるが、命令とは異なる性質がある。命令は、現在はまだ生起していない事態を未来において生起させることを聞き手に働きかける表現であるが、一方「禁止」は、未来においてある事態が生起することを禁止する「未然防止」に加えて、現在、すでに行われていることを禁止する「続行阻止」の場合がある

- ・ 明日はここに来るな。 … 未然防止

- ・ そこに立つな。 … 続行阻止

「のに」と共起する禁止表現は、続行阻止の場合であり、すでに事実として生起し確定している事態の続行を禁止する。そのため、「のに」で結びつけることができると考えられる。なお、稀ではあるが、命令の場合でも、すでに起こっていることが否定的な事態である場合には、それをさらに否定した肯定自事態を命令するような表現が可能である。

- ・ 若いのに、もっと派手な格好をしなさいよ。

この場合、すでに起こっている事態は「派手な格好をしていない」ことであり、この否定的事態を禁止する「派手な格好をしなさい」という命令が可能になる。

また、「のに」では不適切になる疑問や推量も「のだ」を含んだ疑問や推量であれば可能である。

- ・ 雨が降っているのに、外で遊ぶのですか？。
- ・ 雨が降っていたのに、外で遊んだのだろう。

こうした場合も「のだ」によって疑問や推量のスコープが限定され、前件と後件の逆接関係が明確になるからであろう。

- ・ [雨が降っているのに、外で遊ぶ] のですか？。
- ・ [雨が降っていたのに、外で遊んだ] のだろう。

「のに」の後件に疑問表現が来る典型的な例は、理由を尋ねる疑問文の場合である。

- ・ 薬を飲んだのに、治らない。
- ・ 薬を飲んだのに、どうして治らないの？

この場合も「のだ」疑問文になり、また「治らない」という事態は生起していることが確定している。

また、次のような反語的な疑問表現の場合も「のに」が現れる場合がある。

- ・ 英語もできないのに、外資系の会社に入れるでしょうか？
- ・ 練習で失敗したのに、本番でうまくいくかなあ。

それぞれ次のような二つの事態の関係が逆接的であり、それ全体が否定されるという見込みを表す表現である。

- ・ [英語もできないのに、外資系の会社に入る] ことはできない
- ・ [練習で失敗したのに、本番でうまくいく] ことはない。

もし、そのような見込みがない場合、つまり反語的ではなく、疑問である場合には、次のように表現する必要がある。

- ・ 英語はできませんけど、外資系の会社に入れるでしょうか？
- ・ 練習では失敗したけど、本番ではうまくいくかなあ。

## (2) 終助詞的用法

「のに」と「けれども・が」には、後件が出現しない、終助詞的用法が見られる。本来、「のに」や「けれども・が」の後ろには、後件（主節）が出現するはずであるが、それが現れず、しかも単なる省略とは言えない場合がある。

まず「のに」の終助詞的用法として特徴的なのは、反事実的条件文の文末に出現する場合である。

- ・ お金があれば、買えるのに。

「お金があれば、買える」という事態は、一般的に成立する因果関係を持った事態であるが、そこに「のに」が接続することによって、それとは逆の事態が事実として確定していることが後件に現れることを予測させる。そこから前件「お金があれば、買える」が実現し得ない事態、すなわち反事実的事態であることを示すものである。

- ・ お金があれば、買えるのに、お金がないから、買えない。

こうした反事実的条件文の文末だけでなく、「のに」は広く文末に出現し、「のに」の前件を阻害する事態が実現したことに対する話者の不満・残念といった気持ちを示す。

- ・ そのお菓子、私のなのに。
- ・ 気をつけなさいと言ったのに。

また「けれども・が」も文末に多く出現する。

- ・ 「田中さんですか？」「はい、そうですけど」
- ・ 「すみません、今、何時ですか？」

「時計を持ってないので、わからないんですけど」

「けど」によって、後件があることを暗示させ、そこで文が終わらない形をとることで、断定を回避する。それによって、聞き手に対して情報を柔らかく、婉曲的に提示するという表現効果が生じ、場合によっては待遇的に丁寧度が高い印象も与える。また後件が出現しないことは、その後件の内容を聞き手に判断させる、あるいは聞き手がその次の内容を言うことを求める標識になり、聞き手にターンを譲るという効果もある。「のに」が話し話者の感情といった話し手めあてであるのに対し、「けれども・が」は聞き手に対する配慮から用いられる。

なお、「ても」も文末に出現することは可能であるが、基本的には後件の省略と考えるのが適当であろう。

- ・ そんなこと言われてても（困る）。

### 2.3 意味的相違

このような前件および後件の文法的な特徴の違いは、それぞれの形式がもつ意味と深く関わっている。

#### (1) レアリティからみた二分類

「けれども・が」「のに」「ても」の相違点を見ていくと、第一に「ても」は仮定的な因果関係の結びつきを表すことができるのに対し、「けど」「のに」はできないという点が挙げられる。

- ・ もし（たとえ）雨が降っても、試合は行われる（だろう）。
- ・ \*もし（たとえ）雨が降るのに、試合は行われる（だろう）。

- ・\*もし(たとえ)雨が降るけれども、試合は行われる(だろう)。

この点から「ても」は逆接条件節を表し、「と・ば・たら・なら」に対応するのに対し、「のに」「けれども・が」は事実的な逆接節であり、リアリティの面からは「から」「ので」に対応すると言える。

ただし、「けれども・が」は事態を仮定することはできないが、未実現の事態を表すことは可能である。

- ・雨が降るかもしれないけれども、試合は行われる(だろう)。

この場合、前件は話者の認識(例えば推量)を表す形式を伴う必要があり、そこでは話者の認識あるいは判断は確定している。一方「ても」の場合は話者の認識においてもその事態は仮定的である。「ても」が仮定的であるのに対し、「けれども・が」が事実的な事態を表すというのは、最も仮定性が高い反事実的自体を「けれども・が」が表せないことからわかる。

- ・お金があつても、買わなかつただろう。
- ・\*お金が{あつた/あつただろう} けれども、買わなかつただろう。

以上から、この3種類は次のように分けられることがわかる。

	ても	のに	けれども・が
仮定的逆接	○	×	×
事実的逆接	○	○	○

## (2) 「ても」の意味的特徴

形の上では「ても」はテ形を「も」によってとりたてた形態であり、テ形が表す条件を並列したものと考えられ、次のように、逆接というより条件の並列と見られるものがある。

- ・3を自乗すると(しても)9になるし、-3を自乗しても9になる。

これは、次の二つの条件文を一文にしたものであり、後ろに来る条件文は必ず「ても」にならなければならない。

- ・3を自乗するとと9になる。+ -3を自乗するとと9になる。

この条件の並列が、どのように逆接表現(条件の逆接)につながるのだろうか。

前件が実現した場合に後件が成立することを表す条件文は、多くの場合、前件が実現しない場合には後件が成立しないことを含意する。例えば「この薬を飲めば治る」という条件文は、「この薬を飲まなければ治らない」ということ(「誘導推論」と呼ばれる)を含意するのであるが、しかし「この薬を飲む」ことが実現しなかった場合にも同じ結果(=治る)が実現することを表す文「この薬を飲まなくても治る」という文は、「この薬を飲めば治る」という条件関係の含意「この薬を飲まなければ治らない」に反することになり、「この薬を飲めば治る(この薬を飲まなければ治らない)」という条件関係を否定することになる。それが逆接条件という解釈につながる。「ても」が表す逆接の意味は、条件表現が持つ含意(誘導推論)の否定する形であるところから生まれる。

「ても」が条件の並列を基本とし、そこから条件の逆接（逆接条件）の意味が生じていることは、事実的な場合を比べるとより明確になる。事実的な場合は「のに」「けれども・が」「ても」のいずれも可能である。

- ・薬を飲んだのに、治らなかった。
- ・薬を飲んだけれども、治らなかった。
- ・薬を飲んでも、治らなかった。

この中で「他の治療も行ったけれども、治らなかった」という並列的な意味を持ちうるのは「ても」のみである。

なお「のに」の場合は「薬を飲む」ことが実現した場合に「治る」ことが予測されるのに対して、それが実現しなかったことを不満に思うニュアンスがあり、「けれども」の場合は、その予測が実現しなかったことを表す。

逆接条件形式には「ても」の他に「たって」がある。「たって」も「ても」同様、並列させることも疑問語と共起することも可能であるが、「たって」は1回の事実的な事態間の関係を言い切る場合には使いにくい。

- ・？薬を飲んだって、治らなかった。
- ・あのとき、徹夜しても終わらなかったんだから、この仕事を今日中に仕上げるのはとても無理だ。
- ・あんな薬なら、飲んだって飲まなくたって変わらない。
- ・どこを探したって、見つからない。

### (3) 「のに」の意味的特徴

「のに」は前件から予測される事態とは異なる事態が後件に表され、かつ予測が外れたことに対する話者の意外感・不満・後悔が表される。そのため「のに」は原則として予測が外れていることが明らかになっている場合、すなわち実現した事態に関してのみ、使用され、それが2.2(1)で見た「のに」のモダリティ制約の背景にある。

### (4) 「けれども・が」の意味的特徴

「けれども・が」においては、前件から予測される事態とは異なる事態が後件に表される。まず、狭い意味の因果関係的な予測に反する場合は「のに」「ても」でも表すことができる。

- ・薬を飲んだけれども、直らなかった。

予想と一致する場合もあり、これは「のに」でも表すことができるが、「ても」では表せない。「けれども・が」でもこの場合は、予想の通りであったことに対する意外感が表されるが、「のに」の場合ほどは強くない。

- ・雪が降ると予想されていたが、本当に降った。

また「けれども・が」は、後件で述べる判断・評価を部分的に否定したり、制限したりすることを表す譲歩の用法があり、これは「のに」「ても」にはない。

- ・負けたけれども、全力は尽くした。
- ・よく分からないけど、佐藤さんは来ないと思う。
- ・一回だけだけ、たばこを吸ったことがある。

また二つの事態の対比的な関係を表す場合もある。

- ・男子生徒はいるが、女子生徒はいない。

また「けれども・が」は、後件の前置きや注釈として機能する場合もある。前置き・注釈にはさまざまなものがあるが、第一に聞き手に質問・依頼などの言語行動を起こす前に用いるものは、聞き手に前提となる状況を説明することにより、言語行動の直接性を緩和させる機能がある。

- ・もしも、田中ですが、佐藤さん、いらっしゃいますか？
- ・すみませんが、ペンを貸していただけませんか？

また話し手の主張の注釈として、伝達内容についての様々な情報を補足する。

- ・田中さんに聞いたんですが、佐藤さん、来月留学するそうです。
- ・簡単に説明しますが、今回の調査は非常に大規模に行われました。
- ・私事で恐縮ですが、来月、弟が結婚することになりました。
- ・信じられないことですが、来年の大会は中止になりました。
- ・話は変わりますが、来週、本校の体育館で卓球の全国大会が行われます。

その中で特徴的なものは話題（主題）を提示する場合であり、「名詞＋コピーラ（判定詞）＋けれども・が」という形で使われる。

- ・明日の天気ですが、低気圧の影響で降雪が予想されています。
- ・大会の結果ですが、次のようになりました。

「けれども・が」には、時間の流れに沿って単に生起する事態を並べる場合もある。

- ・昨日初めてトルコ料理を食べたが、とてもおいしかった。
- ・昨日は10時頃に家に帰ったが、その後、風呂に入ってすぐに寝た。
- ・初めて鈴木先生に会いましたが、とても立派な先生ですね。

このような場合も後件に対する前提、あるいは状況を説明する機能を果たしている。

### 3. 共通調査項目の解説

#### 3.1 テモ類

「ても」は仮定条件（仮説的・反事実的）を表せることから、条件表現に対応する逆接表現であり、その用法の枠組みも条件表現の場合に対応する。

大きく、従属節用法と非従属節用法があり、従属節用法は、仮説的・反事実的・事実的な場合がある。また「ても」特有の表現として条件の並列、前件に疑問語を含む場合がある。

非従属節用法は、当為を表す評価のモダリティ形式「てもいい」を構成する場合、および接続詞的用法がある。

- 1 従属節用法
  - 1-1. 仮説的用法
  - 1-2. 反事実的条件
  - 1-3. 事実的用法
  
  - 1-4. 同じ帰結を導く条件の並列
  - 1-5. 疑問語との共起
  
- 2 非従属節用法
  - 2-1. 助動詞的用法
  - 2-2. 接続詞的用法

## 1 従属節用法

### 1-1. 仮説的用法（接続調査、後件のモダリティ制限調査を兼ねる）

(01)～(05)は接続調査の項目になる。

- (01) 走っても、間に合わないだろう。（動詞述語，推量）
- (02) 走らなくても、間に合うだろう。（動詞述語否定形，推量）
- (03) 今は寒くても、午後になれば暖かくなるだろう。（形容詞述語，推量）
- (04) 雨でも、試合はあるだろう。（名詞述語，推量）
- (05) いやでも、ちょっとは我慢できるだろう。（形容動詞述語，推量）

(06)～(10)は、後件のモダリティ制限に関する調査である。なお、(06)は「とりたて表現」とも捉えられる。

- (06) 子どもでも知っている。（名詞述語，断定）〈GAJ46〉
- (07) うちからなら、9時に出てもじゅうぶん間に合う。（動詞述語，断定）
- (08) うちからなら、9時に出ても間に合うか？（動詞述語，問いかけ）
- \* (09) たとえ寝坊しても、朝ご飯はちゃんと食べろ。（動詞述語，命令）
- (10) 少しくらい寒くてもがまんしろ。（形容詞述語，命令）

### 1-2. 反事実的条件

(11)～(14)は反事実的条件文の接続調査である。

- (11) あそこから走っても、間に合わなかっただろう。（動詞述語）
- \* (12) あの人なら、痛くても我慢していただろう。（形容詞述語）
- \* (13) たとえどしゃ降りでも、試合はあっただろう。（名詞述語）
- \* (14) たとえいやでも、少しの間なら我慢できただろうに。（形容動詞述語）

### 1-3. 事実的用法

後件が過去形になる事実の場合は、反復的・多回的な場合と一回的な場合がある。「たつて」との置き換え可能性からみると、一回的な関係を言い切る場合には「たつて」は使いきくい。

- (15) 若いころは、徹夜しても平気だった。(動詞述語, 多回的, ○タツテ)
- (16) 徹夜しても, 結局, 仕事は終わらなかった。(動詞述語, 一回的, ?タツテ)
- (17) あのと、徹夜しても終わらなかったんだから, この仕事を今日中に仕上げるのはとても無理だ。(動詞述語, 一回的, ○タツテ)
- \* (18) 昔は, 少くくらい痛くても我慢した。(形容詞述語, 多回的, ○タツテ)
- \* (19) みんなが見ていたので, 痛くても我慢した。(形容詞述語, 一回的, ?タツテ)
- \* (20) 昔なら, どしゃ降りでも試合はかならずあった。(名詞述語, 多回的, ○タツテ)
- \* (21) どしゃ降りでも, 昨日は試合があった。(名詞述語, 一回的, ?タツテ)
- \* (22) 少々いやでも, いつも我慢してきた。(形容動詞述語, 多回的, ○タツテ)
- \* (23) 少々いやでも, そのときは我慢した。(形容動詞述語, 一回的, ?タツテ)

#### 1-4. 同じ帰結を導く条件の並列

(24)~(26)は異なる事態を並列する場合、(27)・(28)は肯定と否定を並列する場合、(29)・(30)は同じ事態を繰り返す場合である。

- (24) 電車で行っても車で行っても, 大して時間は変わらない。(仮説的用法)
- \* (25) 電車で行っても車で行っても, 結局時間は変わらなかっただろう。  
(反事実的用法)
- \* (26) 電車で行っても車で行っても, 結局時間は変わらなかった。(事実的用法)
- (27) お前が行っても行かなくても, 結果はどうせ同じだ。(仮説的用法)
- \* (28) お前が行っても行かなくても, 結果は同じだっただろう。(反事実的用法)
- (29) 書いても書いても終わらない。(仮説的用法)
- \* (30) 書いても書いても終わらなかった。(事実的用法)

#### 1-5. 疑問語との共起

- (31) どんなに食べても太らない。(仮説的用法)
- \* (32) (もともと太らない体質だから) どんなに食べても太らなかっただろう。  
(反事実的用法)
- \* (33) 若いころは, どんなに食べても太らなかった。(事実的用法)
- (34) 何を聞いても, どうせ答えないだろう。(仮説的用法)
- \* (35) 何を聞いても, 答えなかっただろう。(反事実的用法)
- \* (36) 何を聞いても答えなかった。(事実的用法)

## 2 非従属節用法

### 2-1. 助動詞的用法

「でもいい」という複合的な形態によって表される意味は、主体の人称により異なる。(37)・(38)のように二人称主体の動作については、聞き手に対する許可与えを表し、(39)のように動作主体が一人称で疑問文となった場合は、許可求めの意味になる。(40)のように、動作主体が一人称で平叙文の場合は、許容の意味を表し、(41)のように主体が三人称の場合は事態の発生を許容する推論を表す。

(37) おなかがいっぱいなら、残してもいいよ。(許可)

(38) いやなら、行かなくてもいいよ。(許可) 〈GAJ157〉

(39) 酒を飲んでもいい? (許可)

(40) 私が代わりにやってもいいよ。(許容)

(41) おかしいな。もうそろそろ着いてもいいころなのに。(推論)

肯定的な「いい」に対して、否定的な場合は「だめだ」が用いられる。

(42) おまえが行ってもだめだ。(否認) 〈GAJ171・172〉

「いい」が過去形になると、事態は反事実的に解釈され、それにより後悔・不満という意味が付加される。

(43) おみやげにもう一つ買ってよかったなあ。(後悔)

(44) ひとつぐらい食べてもいいじゃないか。(不満)

## 2-2. 接続詞的用法

「ても」を含む接続詞としては「でも・それでも」があり、他にも「それにしても・そうはいっても・といっても」などもある。「でも・それでも」や「そうはいっても・といっても」は、逆接条件節としての意味を保持するが、「でも・それにしても」は談話の冒頭に来て、話題転換の標識として使用されることもある。

(45) A: 当日、雨が降ったらどうする?

B: {それでも/でも/\*なのに/?だけど}, 試合はあるだろう。

(仮説的用法)

(46) (雨天の試合で気の毒だった)

A: いっそのこと、もっと降っていたら中止になったかもしれないのにね。

B: いやあ, {それでも/?でも/\*なのに/\*だけど}, 試合はあっただろう。(反事実的用法)

(47) 私は毎日水をやった。{それでも/でも/なのに/だけど} 花は枯れてしまった。(事実的用法)

(48) (唐突に) {それにしても/\*それでも/でも/\*なのに/だけど} えらいなあ, まだ高校生だろう。とてもしっかりしているじゃないか。(話題転換)

## 3.2 ケレドモ・ノニ類

「のに」も従属節用法と非従属節用法をもち、前者は、狭義の逆接条件、すなわち因果関係の不成立を表す場合の他に、譲歩・対比・前置きの用法がある。

非従属節用法は、終助詞的用法、および接続詞的用法がある。

1 従属節用法
1-1. 因果関係の不成立・予想外（接続調査，後件のモダリティ制限調査を兼ねる）
1-2. 譲歩（ケレドモ類のみ確認）
1-3. 対比的用法（ケレドモ類のみ確認）
1-4. 前置き用法（ケレドモ類のみ確認）
2 非従属節用法
2-1. 終助詞的用法
2-2. 接続詞的用法

## 1 従属節用法

### 1-1. 因果関係の不成立・予想外（接続調査，後件のモダリティ制限調査を兼ねる）

(01)～(11)は因果関係の不成立を表す場合についての調査項目である。このうち、(01)～(05)は接続調査の項目である。

(01) あの人はあんなに食べる {けれども／のに}，やせている。  
(動詞述語・非過去形接続)

(02) せっかく木を植えた {けれども／のに}，枯れてしまった。  
(動詞述語・過去形接続) (GAJ097)

(03) あんなに家が近い {けれども／のに}，いつも遅刻する。  
(形容詞述語・非過去形接続)

(04) あんなに家が近かった {けれども／のに}，いつも遅刻していた。  
(形容詞述語・過去形接続)

(05) もう出発の時間 {だけれども／なのに}，まだ来ない。(名詞述語接続)

(06)・(07)は、丁寧形式との接続調査項目である。

(06) もう出発の時間です {けれども／のに}，まだ来ませんね。  
(丁寧形「です」接続)

(07) あの人はあんなに飲みます {けれども／のに}，全く酔わないんです。  
(丁寧形「ます」接続)

(08)～(11)は、「のに」の持つ後件モダリティ制限の調査のための項目である。

(08) つらいだろう {けれども／(?) のに／に}，がんばっている。(推量形接続)

(09) 値段は高い {けれども／×のに}，買ってあげ。(後件が命令)

(10) まだ治っていない {×けれども／のに}，無理をするな。(後件が禁止)

(11) 雨が降っている {けれども／×のに}，外で遊びますか。(後件が疑問)

(12)～(13)は、予想外「のに」の持つ後件モダリティ制限の調査のための項目である。

(12) 合格できると思っていた {けれども／のに}，だめだった。

(後件が望ましくない事態)

- (13) 落ちると思っていた {けれども／のに} , 合格していた。(後件が望ましい事態)

### 1-2. 譲歩 (ケレドモ類のみ確認)

譲歩の意味を表す場合、前件は、後件で述べる判断・評価を部分的に否定したり制限したりする内容を提示する。これは「のに」にはない用法である。

- (14) 負けたけれども, 全力は尽くした。

※「コソ+已然形」のある地域では「マケコソスレ」を確認。

- (15) このキュウリは形は悪いけれども, 味はよい。

※「コソ+已然形」のある地域では「カタチコソワルケレ」を確認。

### 1-3. 対比的用法 (ケレドモ類のみ確認)

対比的用法は、二つの主題がある点において対立的であることを表す。

- (16) こっちのトマトは赤いけれども, 隣のはまだ青い。(形容詞述語・非過去形接続)

※「コソ+已然形」のある地域では「トマトコソアカケレ」を確認。

- (17) 父の好物はそばだけれども, 母の好物はうどんだ。(名詞述語)

※「コソ+已然形」のある地域では「好物コソソバデアレ」を確認。

### 1-4. 前置き用法 (ケレドモ類のみ確認)

前置き用法は、後件の言語行為についての前提を提示し、その行為の実現を容易にするよう、機能する。

- (18) 悪いけど, 窓を開けてくれないか。(働きかけの前置き(謝罪))

- (19) おじいちゃんに聞いたんだけど, 昔, 大きな地震があったんだって。

(主張や伝達に対する注釈(情報源))

「名詞+コピュラ+けれども・が」という形で、主題を提示するような場合もある。

- (20) 今度の町内会の旅行だけど, どこがいい?(主題的な前置き)

## 2 非従属節用法

### 2-1. 終助詞的用法

「けれども・が」、文末に出現し、終助詞的に現れる終助詞的用法の場合、そこで文が終わらない形をとることで、断定を回避することができる。それによって、聞き手に対して情報を柔らかく、婉曲的に提示したり、場合によっては待遇的に丁寧度が高い印象を与えたり、聞き手にターンを譲り、反応を求める場合もある。

- (21) [「これ, 誰の車?」と聞かれて] 私の車だけど。

- (22) [自分の席に座っている人に非難がましく]

ちょっと, そこ, 私の席なんだけど。

「のに」は(23)のように反事実的な内容に付くと、その事態が成立しなかったことに對

する話者の不満・残念といった気持ちを示す。また(24)のように、確定した事態に付く場合は、その事態から期待される事態とは異なる結果が生じたことに対する不満や残念な気持ちを表す。

(23) あと少しで合格できたのに。

(24) だから言ったのに。

## 2-2. 接続詞的用法

「けれども」「のに」は狭義の逆接、すなわち予想に反する事態を導く接続詞を構成する。「のに」の場合はコピュラの連体形「な」を伴う。

(25) 私は毎日水をやった。{けれども／なのに}、花は枯れてしまった。

### 参考文献

- 今尾ゆき子(1994)「「ケレド」と「ノニ」の談話機能」『世界の日本語教育』4  
 グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版  
 奥田靖雄(1988)「文の意味的なタイプ」『教育国語』92  
 才田いずみ・小松紀子・小出慶一(1984)「表現としての注釈—その機能と位置づけ—」『日本語教育』5  
 2号  
 金澤裕之(2008)『留学生の日本語は、未来の日本語—日本語の変化のダイナミズム』ひつじ書房  
 三枝令子(2007)「話し言葉における「が」「けど」類の用法」『一橋大学留学生センター紀要』10  
 白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版  
 高橋美奈子(1999)「‘判定詞+接続助詞「が」’による主題提示を持つ文について」『大阪大学日本学報』  
 18  
 永田良太・大浜るい子(2001)「接続助詞ケドの用法間の関係について—発話場面に着目して—」『日本語  
 教育』第110号  
 仁田義雄(1987)「条件付けとその周辺」『日本語学』6-9  
 日本語記述文法研究会編(2008)『現代日本語文法6 第11部 複文』くろしお出版  
 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法5 第9部 とりたて 第10部 主題』くろしお出版  
 前田直子(2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版  
 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店  
 宮島達夫・仁田義雄編(1995)『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版  
 李徳泳・吉田章子(2002)「会話における「んだ+けど」についての—考察」『世界の日本語教育』12